

◆利用層別行動シミュレーション

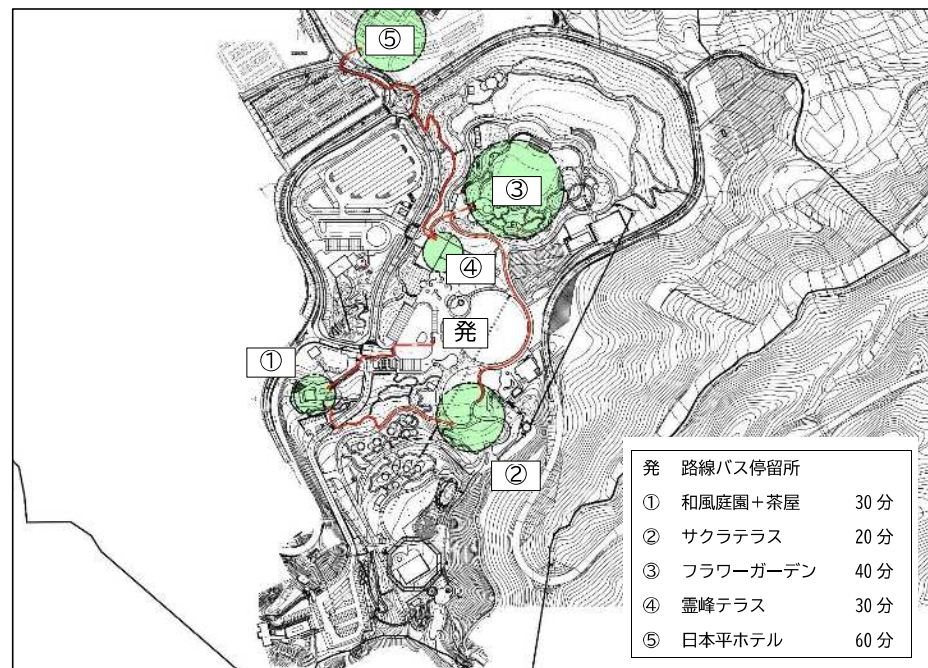
①市民(家族連れ) 春



②市民(カップル) 秋



③市民(高齢者夫婦) 春



④観光客(家族連れ) 夏



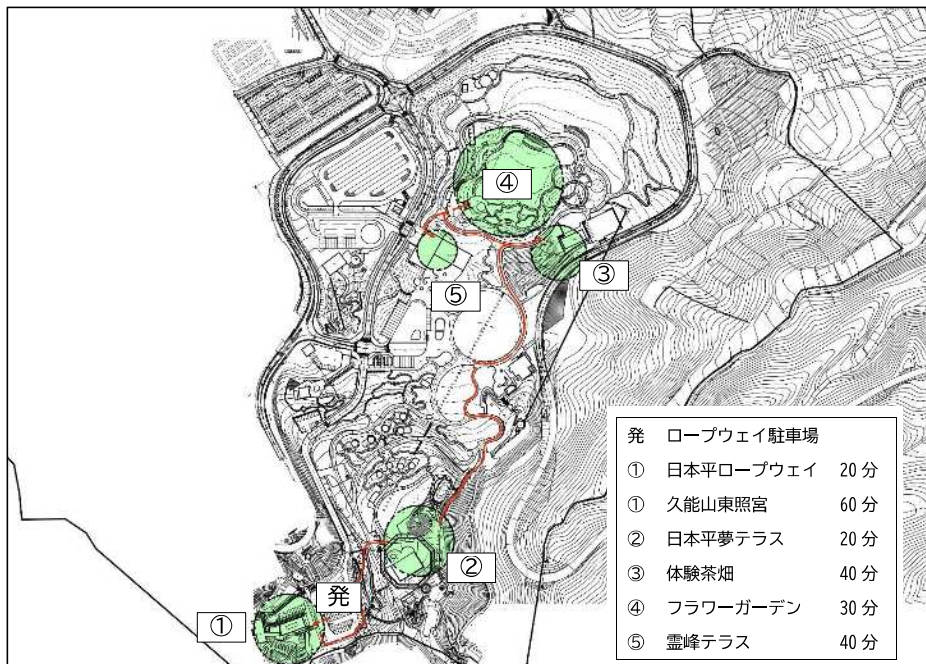
⑤観光客(カップル) 冬



⑦観光客(インバウンド) 秋



⑥観光客(グループ・団体) 春



(1)前庭

富士山方向に大きく開けた緩傾斜の地形を生かした
開放的な芝生地や花修景地として活用



【施設概要・イメージ】

① 大芝生広場

エリア最下部（北東端）の整備済み芝生広場の延長。富士山を主景に三保半島や清水市街地、清水港、伊豆半島が遠望できる開放的な園地。本公園の重要なビューポイントとして位置づけ。



大芝生広場現況



展望デッキ（加工）



ハンモックベンチ

② こもれびの遊歩道

アプローチ道路沿いのバリアフリー対応歩行者園路。富士山の眺望を阻害しない敷地にあたるため、雑木や花木等の疎林地を形成し、アプローチ道路からの公園エントランスとしての修景地として活用。



③ ファミリーパーク

大芝生広場の北西端の一隅を位置とした、主に子ども連れの市民利用に対応したレクリエーション施設。ピクニック園地や、日陰施設を併設した幼児遊具コーナー等で構成。



ピクニック園地（ミッドタウン東京）



日除け付き幼児遊具コーナー

④ 体験茶畑

現在の手もみ茶保存会館のリニューアル。現況の茶畑を極力、残す配置・形態とする。但し、現在の会館建物の老朽化と眺望の阻害要因となっているため、移設の上で改築。

② フラワーガーデン

大芝生広場から連続する上側（南西側）の緩傾斜地を園路で囲み、広大な敷地を活かした宿根草やグラス類を主体とするナチュラルガーデンや、野草が混在するくさっぱら、ツツジやサクラなどの花木等から成る草花の庭園。富士山の前景としてばかりでなく、富士山が見えない時でも楽しめる散策園地として整備。

一部にバーベキューコーナーを設けるなど、レクリエーションメニューに幅を持たせる。高い維持管理レベルを保つため、季節別園地有料・閉鎖管理を想定。



富士山の前景となる花畑



ナチュラルボーダーガーデン



くさっぱらでの野外音楽フェス



スカイウォーク(お台場海滨公園)



BBQコーナー



くさっぱら外周のグラスガーデン



富士山とキャラクターモニュメント



さくら山

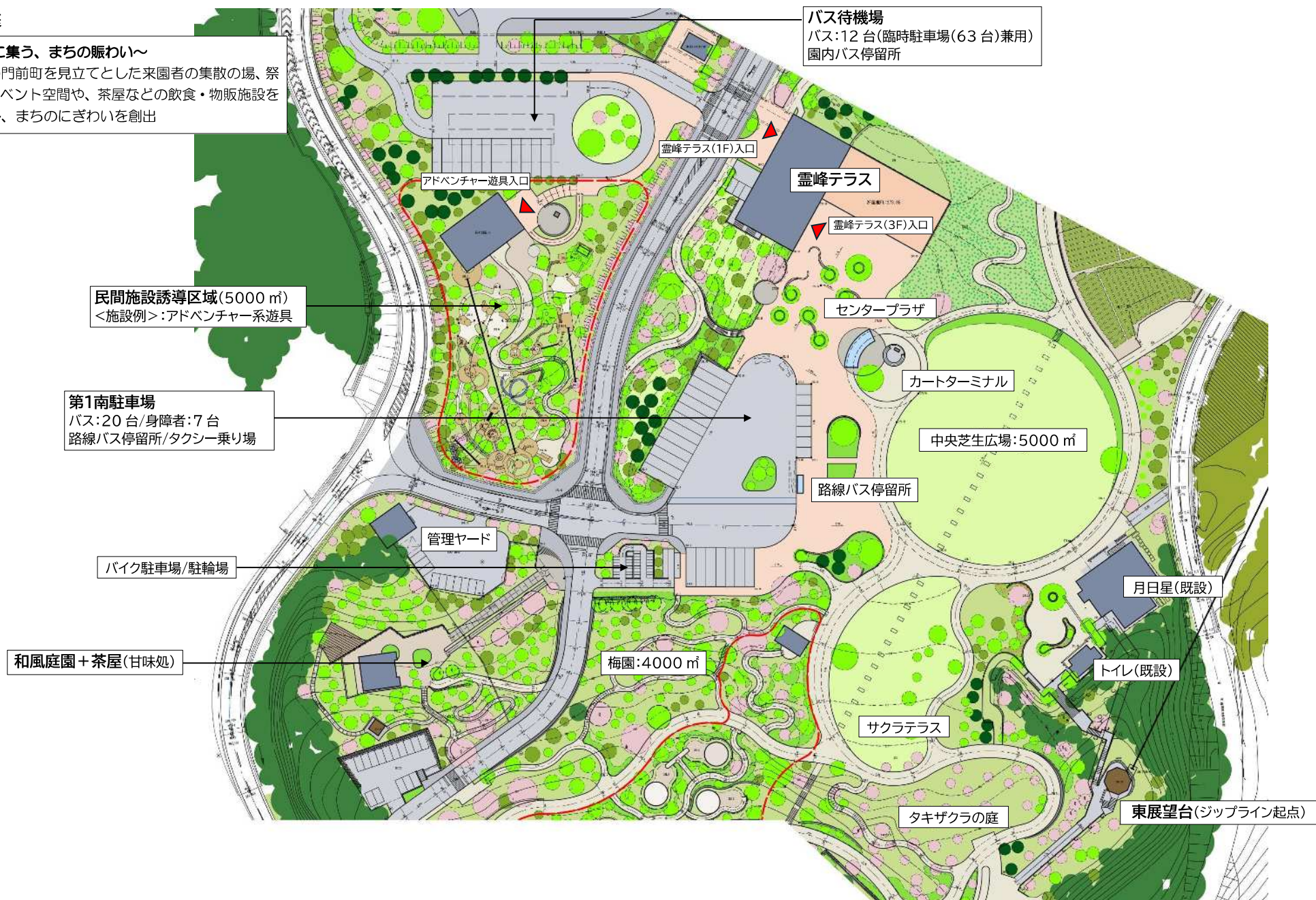


つつじ園(山のホテル)

(2) 中庭

～広場に集う、まちの賑わい～

寺社の門前町を見立てとした来園者の集散の場、祭り・イベント空間や、茶屋などの飲食・物販施設を配置し、まちのにぎわいを創出



【施設概要・イメージ】

① 霊峰テラス（旧公園センター）

本公園の複合サービス機能を担うセンター建築施設。富士山が見えない時も利用できる映像展示（たとえば日本平の歴史や静岡市の風景地の紹介等（絶景映像テラス））や公園のビジターセンター機能、飲食・物販、賓客を接遇するゲストルーム、公園管理事務所等の利用を想定。富士山方向に開かれた大窓や外部広場と連続した屋上部を利用した展望テラスを配置。

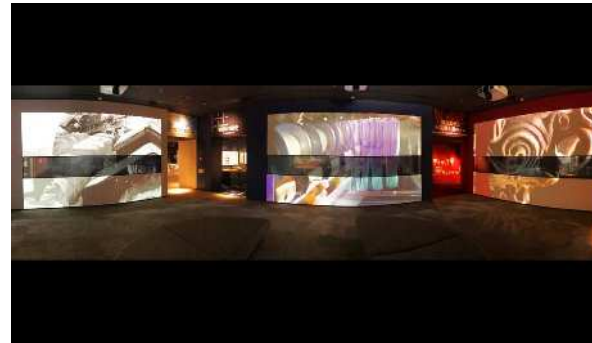
エントランス広場をはさんだ駐車場からの直近のアプローチ道路沿いに配置し、アプローチ道路とセンタープラザの比高差を解消する多層構造とすることにより、建物内のエレベーターやエスカレータによりバリアフリー経路を確保。



大窓からの富士山の景（日本平ホテル）



ガーデンレストラン（目黒雅叙園東京）



映像展示（十日町市博物館）



ミニシアター



デジタルアート展（渋谷ヒカリエ）

② センター広場

霊峰テラス屋上の展望テラスにつながる中央広場。日本平夜市や梅まつりなどの様々なイベントや野外コンサート等の受け皿となる芝生広場（中央芝生広場）と、キッチンカーなどが置ける舗装広場（センタープラザ）から構成。



日本平夜市



中野セントラルパーク

③ 民間施設誘導区域（施設例：アドベンチャー系遊具）

駐車場の立体化により残った駐車場南側の敷地に配置。樹林を活かしたツリーハウスや吊り橋、立体迷路、ネット遊具などを配置し、主に若年層の市民をターゲットとした有料施設として整備。



立体迷路（八景島シーパラダイス）



フォレストアドベンチャー米原



フォレストアドベンチャーよこはま

④ ジップライン

現在の東展望台（1階）と大芝生広場をつなぐ約250mの遊具施設。東展望台への誘客のための施設として位置づけ。



ジップライン

⑤ サクラテラス・タキザクラの庭

現在のハーブガーデン及び舗装広場を改修。バリアフリー園路が縦断する芝生の疎林園地。植栽種はサクラを主体とし、その一部（現在の位置で継続）のタキザクラは、その由来や周囲の修景によって富士山のビューポイントに位置付け。また、域内調達率を視点として、門前の茶屋町をモチーフとしたレンタル店舗（現在のガーデンマルシェ）を園路沿いに複数棟、配置。



左上：ガーデンマルシェ（日本平）

左下：タキザクラ（日本平）

右：足立区都市農業公園

⑥ 梅園

既設の梅園の拡張リニューアル。一部に野点のための園地を配置。

⑦ 和風庭園＋茶屋

現在の「野鳥の家」の活用。「離れ」的静謐空間の特徴を活かし、梅園と景観的に連続する梅の和風庭園として活用。現在の建物は構造調査の上、リフォームして甘味処や和風レストラン等として活用。



日本平野鳥の家



梅を主木とした和風庭園（池上梅園）

③ 交通ターミナル

センター広場に隣接した位置に、バス駐車場や身障者対応駐車場、路線バス停留所、タクシー乗り場、自動二輪駐車場、駐輪場等の交通施設を集約して配置。併せて園内カート乗り場を併設。

(3)奥 庭

～歴史が伝える四周の眺望～

久能寺（現在は東照宮）への現代の参詣道であるロープウェイと、東照宮にあった五重塔をデザインモチーフとしたデジタル電波塔や、夢殿にも擬することのできる夢テラス、展望回廊をシンボルとした静謐の園地として活用

民間施設誘導区域(7500㎡)
＜施設例＞：グランピング



【施設概要・イメージ】

① 民間施設誘導区域（施設例：グランピング）

宿坊をモチーフとしたアウトドアをリゾート感覚で快適に楽しむキャンプスタイルの宿泊施設。夢テラス及び展望の丘北側の斜面地を利用。景観に配慮し、棟間をゆったり確保した配置のテント形式（概ね1区画 100㎡、8から10区画を想定）を基本とし、園地部も疎林や林床の花低木等によって宿泊地環境を整備。民間事業者の参画誘導施設として位置づけ。



舞子リゾート（新潟県南魚沼市）



グランピングスペースエンキャンプ（長野県塩尻市）

（4）その他

① 茶畑（全景の茶の間）

大芝生広場からアクセス道路をはさんで北東側に位置する茶畑（民間）は、富士見景観のビューポイントでもあることから、現在の位置、範囲で存続。現在の営農者が高齢のため廃業を希望しており、公園化に際しての維持管理手法が課題。

② 有度山山頂

現在は、都市計画区域外にある有度山の山頂部。展望史跡（超然台）のひとつであり、四周眺望のビューポイントであることから、吟望台からの吊り橋により動線を確保した上で、新たな展望施設に追加。



3. 動線計画

① 車両動線

・公園へのアクセスは、静岡方面からが旧パークウェイ（アクセス道路）、清水側からが旧パークウェイ（アクセス道路）及び旧道で、現状ではこの道路が公園内を横断しており、かつ県駐車場並びにロープウェイ駐車場や日本平ホテルへのアプローチがひとつの交差点に集中し、ピーク時の渋滞の大きな原因になっている。



・新たな計画（一部整備済み）では、アクセス道路が公園を迂回するルートに変更新設され、またラウンドアバウト交差点とロープウェイ間が公園専用道路（アプローチ道路）となり、駐車場を1箇所集約、アプローチ道路からの入出庫とし、滞留長を確保して、渋滞を回避することとしている。

② 荷捌き車

・飲食物販等の荷捌き車や、公園管理車両の出入口を、アクセス道路並びにアプローチ道路から各々の施設付近に設けるものとする（動線計画図参照）。

③ 園内移動

【各施設間移動】

- ・計画地（事業区域）は、山頂の吟望台から北端の大芝生広場まで直線で600m、53mの高低差があり、園内全域を移動するためには相応の体力を要することになる。
- ・特に高齢者や、滞在時間に制約のある来園者等に対しては、バリアフリーの観点からも歩行を補助する移動サービスへの期待が想定される。
- ・現在、夢テラス周辺で乗合型の電動カートが運用されており、園路内における少人数の乗合型の運用を考慮し、霊峰テラスに近接するセンタープラザ内に各所移動の起点（ターミナル）を設け、各エリアを周回する電動カート等の導入を検討する。
- ・電動カートについては、将来的には、自動運転を考慮する。

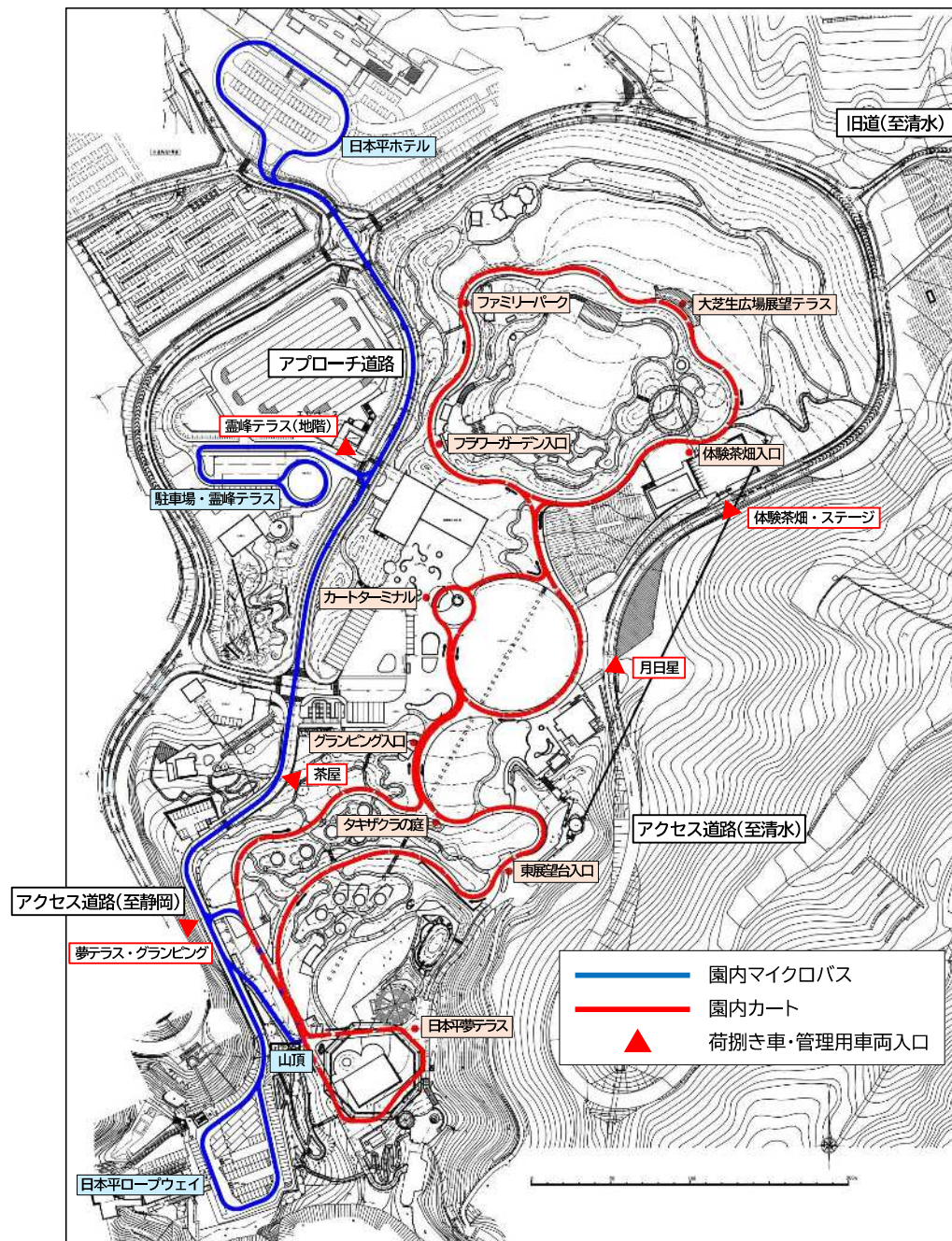
【日本平ホテルと日本平ロープウェイ間の移動】

- ・要望の高かった日本平ホテルと日本平ロープウェイ駅を連絡する移動については、駐車場と駅間との移動距離の課題と併せ、団体利用等のまとまった人数の移動を考慮し、マイクロバス等の導入を検討する。

④ 園内歩行

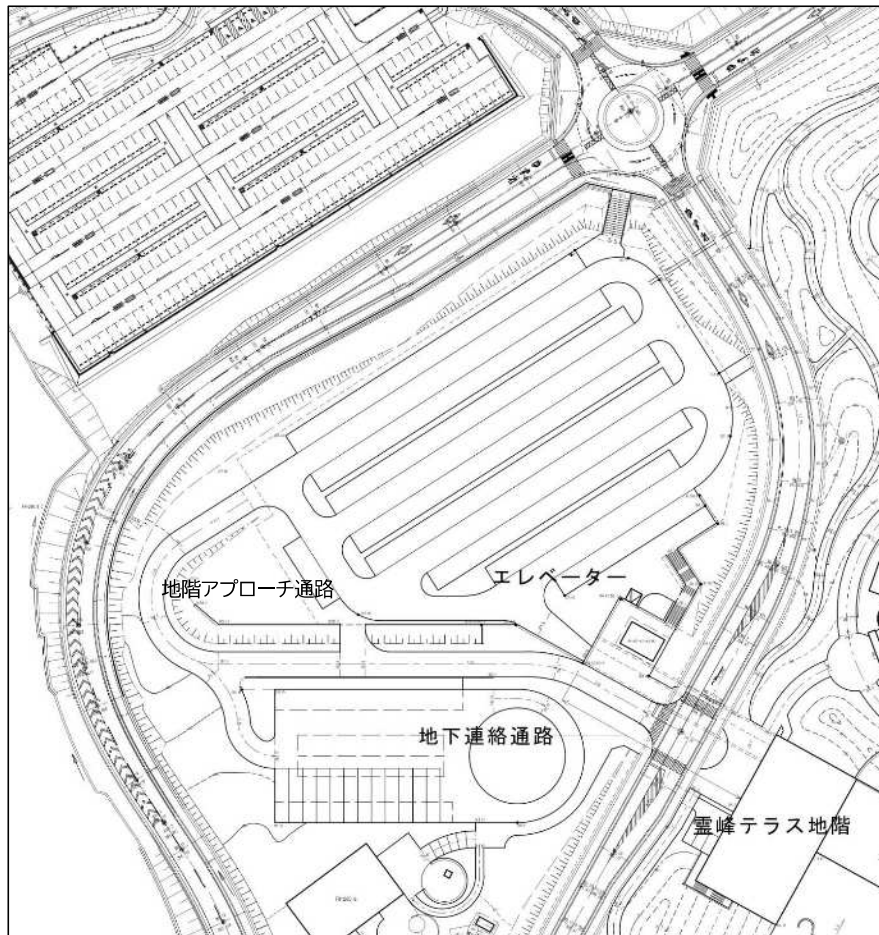
- ・公園へのアクセスは、自動車利用者は、駐車場から霊峰テラス（公園センター）館内のエレベーター、エスカレーターを経てセンタープラザを経由し、前庭、奥庭の回遊園路に接続。
- ・バス並びに路線バス、タクシー利用者は、中庭（センターゾーン）内の交通ターミナルを起点として前庭、奥庭の回遊園路に接続。
- ・前庭、奥庭の回遊園路や中庭内の園路は、各エリアの施設をつなぐとともに、適宜、景観のビューポイントを配置し、これらをつなぐ「絶景ウォーク」のコースとしてアクティブコンテンツに位置付け。
- ・歩行動線はできる限りバリアフリー対応（縦断勾配5%以内）とし、高低差を利用した沿道修景によって、「歩く」ことがレクリエーションになるよう配慮。

図. 動線計画図



⑤ 駐車場

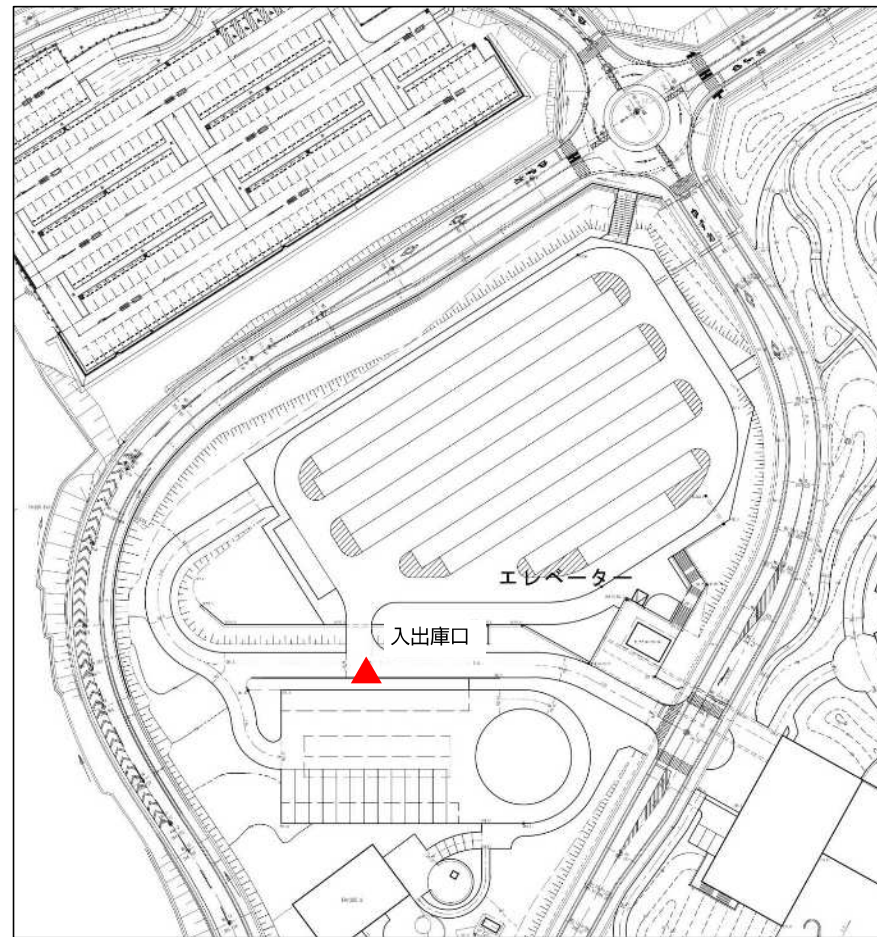
地 階



霊峰テラス



1 階



- ・現在、県駐車場、梅林前県駐車場、日本平ホテル旧駐車場に分散している駐車場を、日本平ホテル旧駐車場の位置に集約して配置し、土地利用の有効化を図るため、立体構造（２層）とする。
- ・山頂部や日本平ロープウェイから遠隔地となるが、移動動線の連絡拠点となる霊峰テラスを直近に配置するとともに、園内カート等の補助手段を講じることで、距離感を回避する。
- ・駐車場への進入はアプローチ道路からの右（左折）交差点を経由し、駐車場までの区間で、できるだけ滞留長を確保することで、駐車渋滞を回避する。
- ・また、地階駐車場と霊峰テラス地階をつなぐ地下通路を新たに設け、地階駐車場からの来園者歩行動線とする他、荷捌き車両の通行や、VIP 対応車の利用に供する。
- ・地階駐車場は、災害時の一時避難場所として活用し、霊峰テラス地階で備品等を保管する。
- ・併せてバス待機場（臨時駐車場併用）、園内バス停留所（将来的にはエアモビリティの離発着場等、新交通システムの受け皿として併用）を駐車場南側に併設する。

4. 景観計画

(1) 基本方針(※平成 19 年度基本計画再掲)

① 面的に連続する緑地景観の創出

吟望台から日本平ホテル芝生庭園までが「みどり」で連続する広がり感の創出。

② 富士山方向の眺望を基軸とする景観形成

富士山方向を意識させる視点場や施設の配置、観富にまつわる歴史性を予感させる環境形成等によって観富の地を再生。

③ 地形特性に応じた主な視点場からの風景の演出

地形的特徴を活かし、遠望景の前景となる俯瞰側の景観を意識した修景演出を図ると同時に、下方からの仰瞰景に配慮。

④ 施設(特に大型構造物や面的施設)整備における景観的配慮

駐車場や建築物等の人工構造物について、主要な視点場からの可視範囲の修景的措置による緑地としての景観的な一体性を確保。

⑤ 1 年 24 時間を通じて楽しむことのできる風景づくり

園内修景による風景の演出や、季節や時間(日の出、日の入り、夜景等)等、1 年を通じて、かつ 24 時間を通じて楽しむことのできる変化に富んだ風景を提供。

⑥ 回遊を誘導するための視点場の意味づけや環境演出

視点場や境界に入る景色に変化を持たせ、各々の風景に物語性を加えることで視点場への移動を誘導

(2) 骨格となる景観構造

① 富士見の眺望や四周眺望景観のストーリー性を演出する景観軸の設定

日本平を視点場とした絵画や風景写真を見立てとした新たな視点場の設定にあたり、各々にストーリー性を持たせるため、いくつかの景観軸を設定する。景観軸は「富士見の景観軸」を主として、対象の景観に対し季節性を重ね合わせた「節気の軸」を加えることによって、例えば「近江八景」のように常には存在せず、季節や時間限定の特別な景として位置付けることで風景に付加価値を持たせ、リピーター利用を誘導する。

※節気：太陰太陽暦で季節を正しく示すために用いた語。1 太陽年を太陽の黄経によって 24 等分し、その分点に節気と中気を交互に配列し、それぞれに季節の名称を与えたもの。1 月から順に立春、啓蟄、清明、立夏、芒種、小暑、立秋、白露、寒露、立冬、大雪、小寒の 12 節気から成る。

●富士見の景観軸

地形の傾斜方向の北東軸(北より+30°)を本公園の主景観軸とし、主に富士山を眺望できる秋～初夏を景観の対象として、例えば「富士見の視点場＝富士見八景」を設けることにより、日本平公園の特徴ある魅力づくりを目指す。

●黎明の景観軸

富士山に最も近い位置から日の出が見られる方向を景観軸として設定し、6 月～7 月の日の出前の黎明的な水墨景観を提供。

(北より+60°)

●名月の景観軸

富士見の景観軸とほぼ直角の方向が中秋の名月の 20:00～22:00 の方向と一致することから月の出の方向を景観対象として設定。

(北より+120°)

●南アルプス景観軸

公園北西側に遠く続く南アルプスの山並みを景観対象とし、太陽の日の入りが最も南アルプス側で沈む夏至日の方向を景観軸として設定(北より-60°)

② ウェルカムロード

本公園へのアクセス道路沿道の修景。静岡側からのアクセスはサクラ、清水側は茶畑を基本植栽種とし、パークウェイ利用者が各々のカーブを曲がった先から、公園への侵入感を演出する。

③ 絶景スポット

園内の移動長を考慮し、一定距離(概ね 200～250m)を基準として休憩地としても利用できる視点場を配置。スマホでの VR 視聴など、景色が見えない時の代替を併設。

A.点的な視点場：吟望台や夢テラス等の既存展望地や、回遊路上に新たに配置する休憩地等で、その場所で富士山やその他の風景を楽しむことのできる視点場

B.線状の視点場：パノラマ景を一望する視対象方向と直角方向に延長のある視点場

C.室内からの視点場：特に富士山が良く見られる冬季や、食事や喫茶を楽しみながらの展望など、主に観光利用を想定した視点場

D.新たな視点場：定点での四周眺望の可能性の高い有度山山頂(超然台)を新たな展望地に加え、吟望台と結ぶ吊り橋とともに、新たな観光コンテンツとして整備

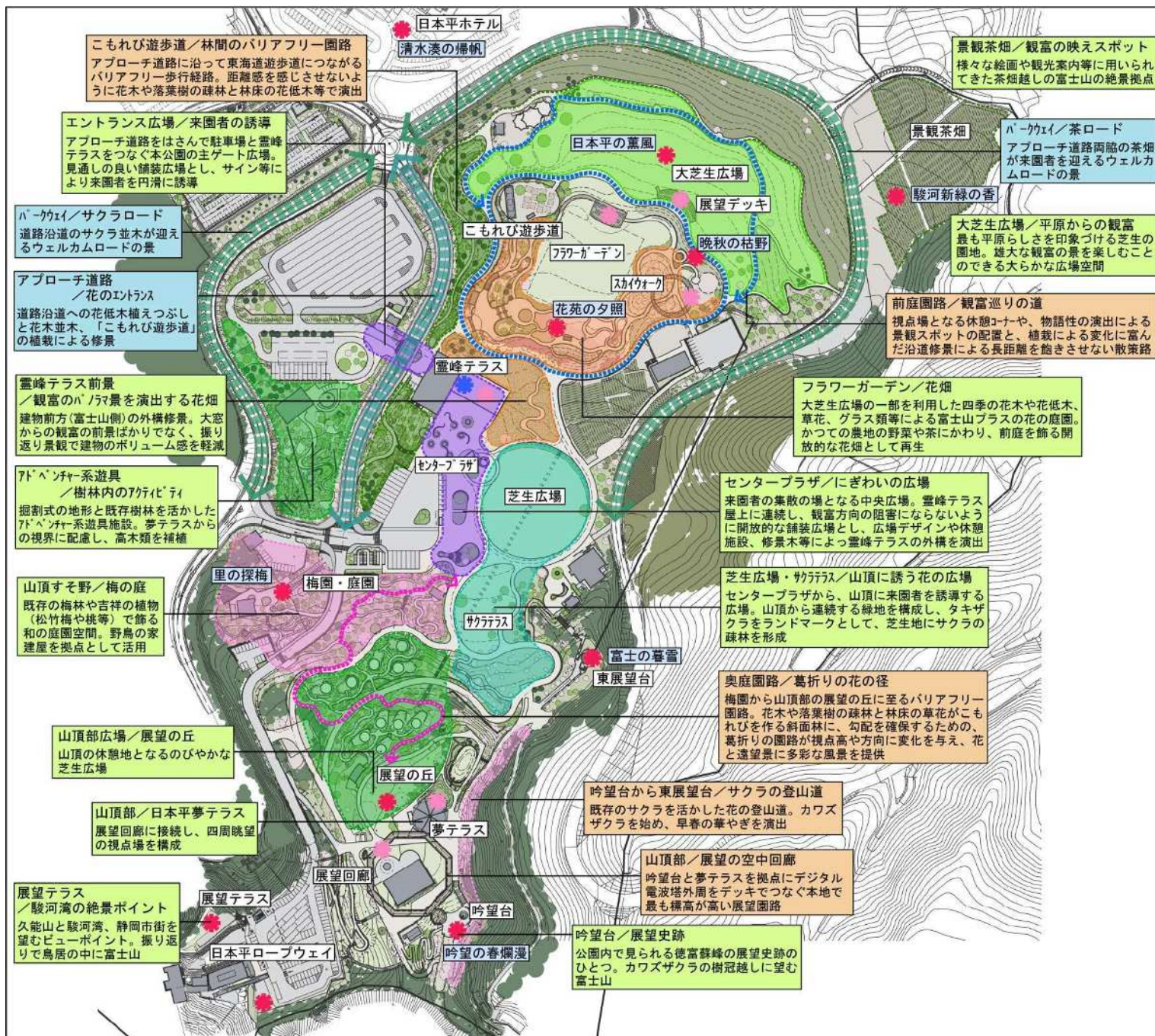
④ 絶景ウォーク

本公園での主要レクリエーションメニューとした「四周眺望地を巡る散策回遊」を誘導していくため、各視点場間をつなぐ園路の沿道修景等、歩きながら風景を楽しむことのできるシーケンス景に配慮するとともに、景観軸等の景観のストーリー性に沿ったトレイルコースの設定や、サイン等による情報発信を行う。

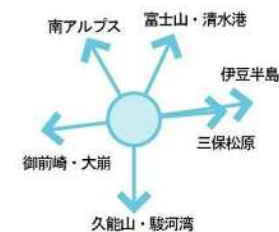
⑤ 絶景プラス

本公園からの景観、特に前庭並びに中庭の各施設・園地からの富士見の景観は、概ね、どの位置からも類似した景観となる傾向にある。本計画では、各所への移動を誘導していくため、多様なレクリエーション施設やアクティブメニューを点在させる計画としているが、併せて視点場についても前景となる園地等の植物修景や、視点場のデザイン、ランドマークとなる構造物等を加えることで、視点場からの景観にバリエーションを持たせた計画を検討する。

図. 景観形成方針図



景観形成の方針図



	アプローチの演出
	面的景観演出
	移動の景観シーケンス
	点的な視点場
	線状での視点場
	室内からの視点場

SCALE=1:5.000

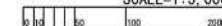
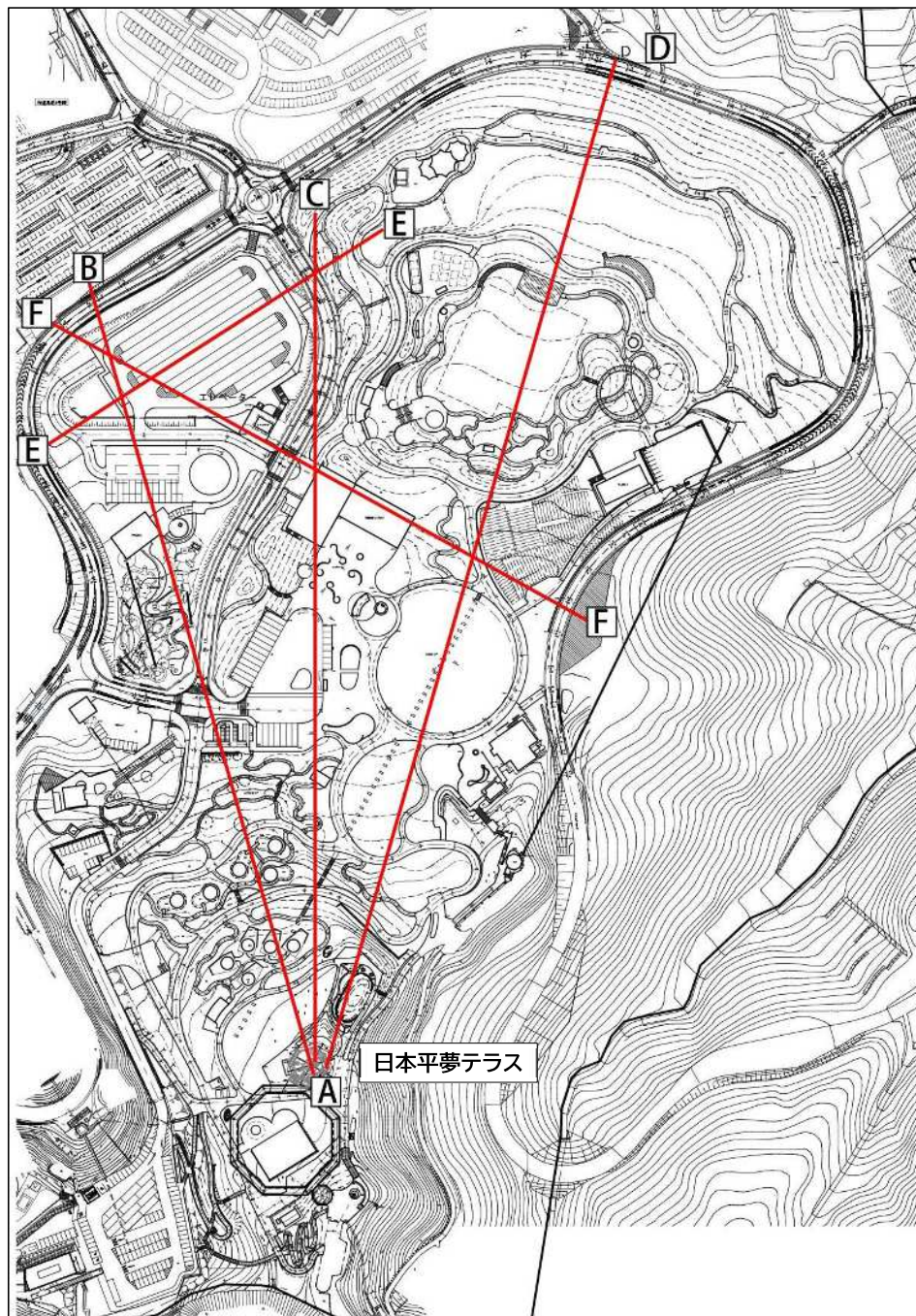


図. 地形断面図



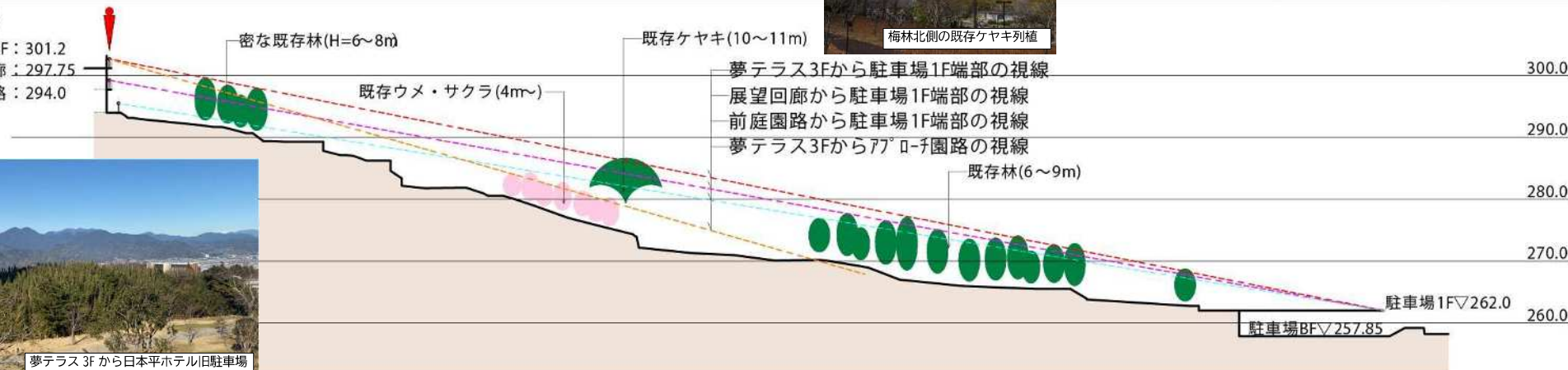
A-B断面図

視点場

夢テラス3F：301.2
展望回廊：297.75
前庭園路：294.0



S=1:500(好) / 1:1000(可) × 70%



計画

夢テラス 前庭 展望の丘 グランピング 園路 梅園 自動二輪車駐車場 アプローチ道路 アドベンチャー遊具広場 バス待機場 第1北駐車場 アクセス道路

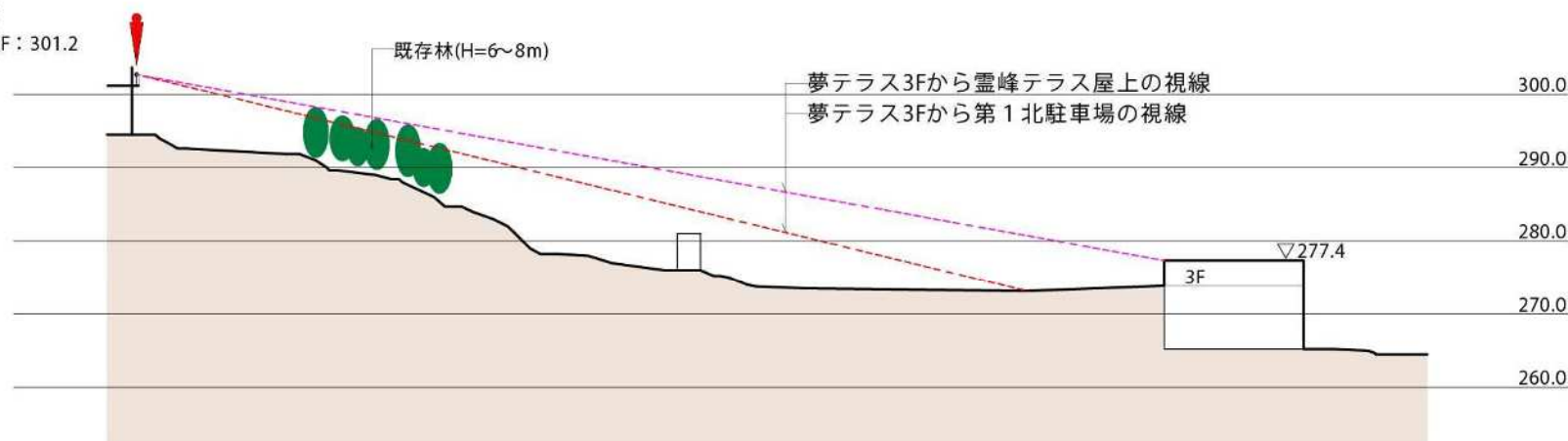
現況

展望の丘 粗放緑地 アプローチ道路 梅園 県駐車場 旧調整池 アプローチ道路 粗放緑地 日本平ホテル旧駐車場

A-C断面図

視点場

夢テラス3F：301.2



計画

夢テラス 前庭 展望の丘 植栽地 園路 園路 園路 園路 園路 園路 第1北駐車場 センタープラザ 霊峰テラス 3F アプローチ道路

現況

前庭 展望の丘 粗放緑地 川崎屋 アプローチ道路 県駐車場 旧調整池 アプローチ道路 日本平ホテル旧駐車場 アプローチ道路